

令和9年産 麦作情報 第1号

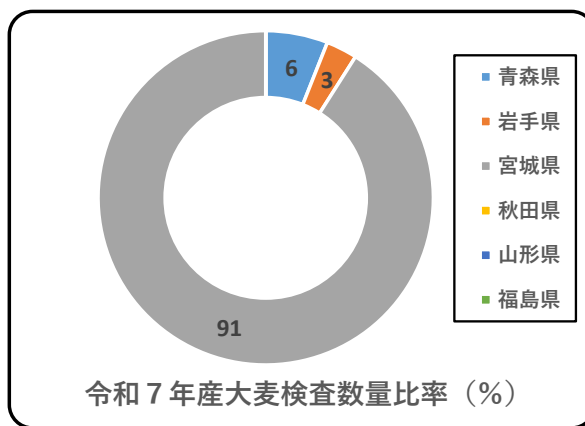
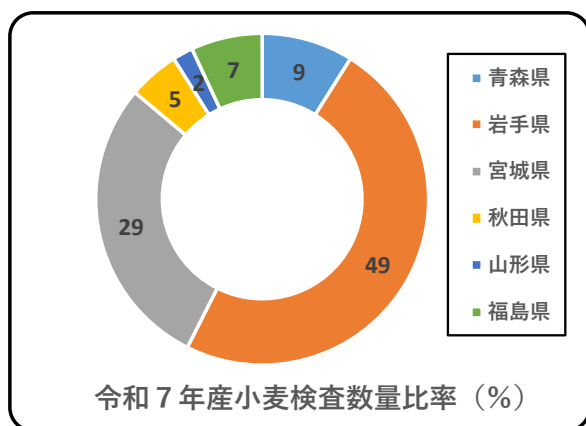
令和8年10月13日：JA全農みやぎ

～「適期播種」と「排水対策」で高品質麦の安定生産を！！～

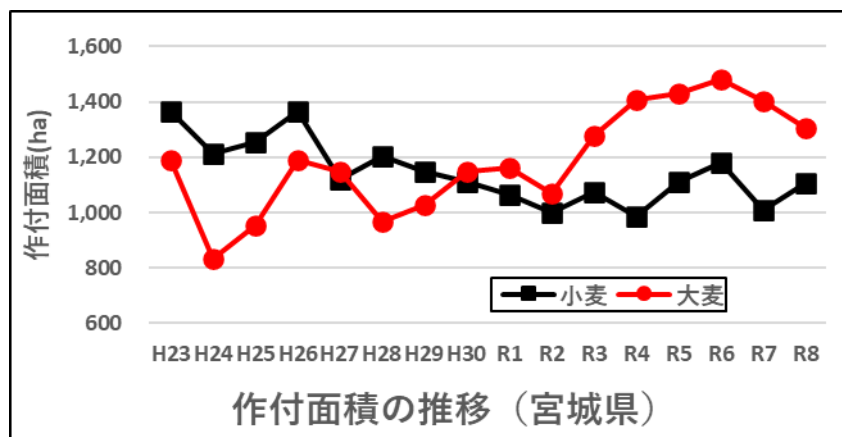
1 宮城県を中心とした麦の生産概況

(1) 東北地方と主産県の収量・品質【農林水産省 麦類の農産物検査結果より作図】

- ・東北地方における令和7年産の麦類検査数量は、小麦が18,113t（前年比95%）、大麦が5,584t（前年比101%）であった。
- ・小麦は、岩手県の49%に次いで宮城県が29%を占めている。
- ・大麦は宮城県が東北一で、東北地方の91%を占める主産県である。

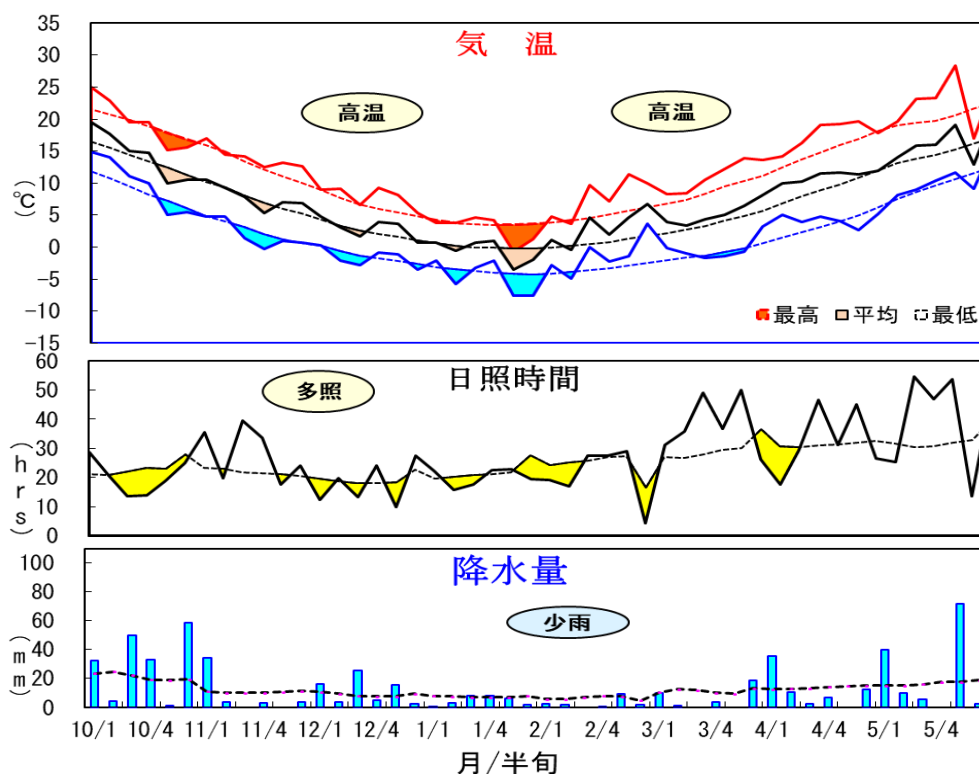


- ・本県における麦類の作付面積は、小麦・大麦ともに1,000～1,400ha前後で推移している。
- ・近年は、小麦がほぼ横ばい、大麦は漸減傾向にある。
- ・令和8年産小麦の検査数量は、「夏黄金」が2,800t、「シラネコムギ」1,360t、「あおばの恋」が230tであった。
- ・令和8年産大麦の検査数量は、「ホワイトファイバー」が1,950t、「シュンライ」が1,250t、「ミノリムギ」が790tであった。



(2) 令和8年産麦類の生育と品質概況【古川農業試験場 麦類作況試験より】

【気象経過（2025年10月～2026年5月 古川アメダス）】



1) 播種～12月上旬

- ・播種時期の10月下旬～11月上旬は、気温は平年並みからやや低く経過した。
- ・出芽日数は、10月中旬播種（10/22）で平年より1日遅かった。10月下旬播種（10/30）は播種後の降雨によって土壌クラストが発生し、平年より3日遅かった。
- ・12月15日調査時点の生育は、草丈は平年の60～110%， m^2 当たり茎数は平年の40～80%にとどまった。播種前後の降雨によって出芽は全般に遅く、気温が低めに推移したため、年内の目標生育量は確保しにくかった。

2) 12月中旬～3月中旬

- ・12月第4～5半旬は平年より $2^{\circ}C$ 程度高く、1月第5～6半旬は平年より $2\sim3^{\circ}C$ 程度低かった。1月21日～2月4日の15日間、降雪が続いた。
- ・幼穂形成始期は、大麦は10月中旬播種では平年より14～22日遅く、下旬播種では $\pm 0\sim7$ 日程度遅かった。小麦は中旬播種では15～18日遅く、下旬播種では5～6日遅かった。

3) 3月下旬～7月中旬

- ・3月下旬以降は、全般に平年より高く経過した。
- ・大麦では、減数分裂期は平年並みからやや遅かったが、出穂期、開花期は1～6日程度早かった。収穫は6月第2半旬頃から始まった。
- ・小麦では、減数分裂期は概ね平年並み、出穂期から開花期は平年より2～5日程度早かった。
- ・大麦の成熟期は6月上旬で、登熟期間が高温で経過したため、平年より2～3日早かった。小麦の成熟期は6月下旬で、降雨の影響により平年より2～5日程度遅くなった。

【作況試験の生育ステージ予測(古川農業試験場)】

	品種・区分	幼穂形成始期			減数分裂期			出穂期			開花期			成熟期		
		本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)	本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)	本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)	本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)	本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)
大麦	シュンライ 中甸	2/4	1/6	1/13	4/12	4/12	4/10	4/19	4/21	4/22	4/26	4/28	4/30	6/1	5/30	6/4
	同 下旬	2/20	2/19	2/27	4/14	4/19	4/17	4/22	4/25	4/27	4/28	5/3	5/4	6/5	5/31	6/8
	ミノリムギ中甸	2/11	1/20	1/28	4/17	4/17	4/16	4/23	4/24	4/26	5/1	5/2	5/3	6/5	5/31	6/8
	同 下旬	2/27	2/21	2/27	4/24	4/21	4/20	4/27	4/27	5/1	5/5	5/6	5/6	6/9	6/1	6/11
	ホワイトファイバー中甸	2/9	1/7	-	4/14	4/13	-	4/21	4/23	-	4/27	4/29	-	6/3	-	-
小麦	同 下旬	2/23	2/17	-	4/17	4/19	-	4/23	4/26	-	5/1	5/4	-	6/6	-	-
	シラネコムギ中甸	3/20	3/10	3/2	4/22	4/24	4/24	4/30	5/2	5/2	5/10	5/14	5/13	6/27	6/12	6/22
	同 下旬	3/22	3/15	3/16	4/27	4/26	4/26	5/2	5/6	5/6	5/12	5/15	5/16	6/28	6/16	6/24
	夏黄金 中甸	3/18	3/14	3/3	4/23	4/24	4/24	4/30	5/2	5/3	5/8	5/14	5/13	6/24	6/12	6/21
	同 下旬	3/22	3/18	3/17	4/26	4/25	4/26	5/2	5/5	5/5	5/11	5/16	5/15	6/25	6/14	6/23

注1) 中甸は10月22日, 下旬は10月30日に播種。条間25cm, ドリル播き。

注2) 中甸播種区は10月22日播種, 下旬播種区は10月30日播種。

注3) 中甸播種の平年値は, 過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

注4) ホワイトファイバーは令和6年播種から調査を始めたため, 平年値はない。

注5) 減数分裂期: 幼穂長が3cmに達した日。

注6) 出穂期: 全茎の40~50%が出穂した日。

注7) 開花期: 全穂数の40~50%が開花した日。

2026年産 麦作における冬季の積算降水量

年月	アメダス	丸森	仙台	大衡	古川	鹿島台	米山	石巻
2025年 12月	降水量(mm)	38.0	37.0	64.5	68.5	43.0	44.0	43.0
	平年値(mm)	38.8	43.3	64.6	53.2	41.1	41.0	41.1
	平年比(%)	97.9	85.5	99.8	128.8	104.6	107.3	104.6
2026年 1月	降水量(mm)	7.5	2.0	42.5	28.0	8.5	5.0	3.0
	平年値(mm)	51.8	41.9	59.9	44.8	34.5	35.9	38.5
	平年比(%)	14.5	4.8	71.0	62.5	24.6	13.9	7.8
2026年 2月 (1~18日)	降水量(mm)	0.0	1.0	8.0	4.5	2.5	1.5	0.5
	平年値(mm)	42.6	40.4	51.6	40.5	35.4	34.8	37.5
	平年比(%)	0.0	2.5	15.5	11.1	7.1	4.3	1.3
	月間降水量 平年比20%以下							
	月間降水量 平年比10%以下							

◆ 1月から2月の降水量は, 沿岸部を中心に著しく少なかった。そのため, 土壤の乾燥が進み, 著しく生育が悪ったほ場も見られた。



【石巻市 土壤の乾燥が進み 生育が悪い】



【大崎市 土壤は湿潤で 生育もまずまず】

4) 成熟期調査・収量調査・品質等

- ・大麦の稈長は, いずれの品種・播種期においても平年より短く, 穂数も少なかった。小麦では, 下旬播種の「夏黄金」の穂数が少なかった。
- ・千粒重は, 大麦では全般に平年より重く, 容積重も平年より高かった。小麦では平年並み～やや高く, 容積重も同様であった。
- ・子実重は, いずれの品種・播種期においても少なく, 特に下旬播種の「夏黄金」は, かなり少なかった。
- ・本年は1月から2月にかけての少雨の影響で, 土壤の乾燥が進み, 強い生育抑制を受けたほ場が見られ, 地域や土壤の乾燥状態によって生育・収量に著しい差が生じた。

【作況試験ほ 成熟期調査・収量調査(古川農業試験場)】

品種		区分	稈長(cm)		穂長(cm)		㎡穂数(本)		千粒重(g)		容積重(g/l)		子実重(kg/a)	
			本年	平年比(%)	本年	平年比(%)	本年	平年比(%)	本年	平年比(%)	本年	平年比(%)	本年	平年比(%)
大麦	シュンライ	中旬播種	65.9	83	3.5	97	316	62	40.9	114	722	109	30.8	57
		下旬播種	72.1	88	3.9	110	339	72	41.9	111	697	102	38.2	70
	ミノリムギ	中旬播種	84.4	87	3.9	99	400	75	37.3	114	720	107	45.0	77
		下旬播種	69.6	72	4.3	106	266	48	38.6	112	686	101	41.9	66
	ホワイトF	中旬播種	78.2	-	4.2	-	348	-	38.0	-	693	-	46.1	-
		下旬播種	83.1	-	4.6	-	417	-	37.7	-	688	-	56.9	-
小麦	シラネコムギ	中旬播種	80.2	97	7.4	103	496	103	40.1	99	831	99	55.2	86
		下旬播種	80.2	101	6.5	92	509	93	41.5	104	834	100	47.3	74
	夏黄金	中旬播種	77.2	98	8.0	101	595	105	40.5	105	834	100	46.9	79
		下旬播種	66.3	88	7.5	96	372	63	41.7	112	809	98	22.8	38

注1) 中旬播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値

2) 千粒重、容積重、子実重は、2.0mmの篩目による

- ・大麦の品質は、外観品質は全般に平年より高かった。硝子率は、「シュンライ」では平年よりやや高く、「ミノリムギ」では平年や前年より低かった。空洞麦は、平年並み～やや高かった。

【作況試験ほ 大麦品質調査(古川農業試験場)】

品種		区分	外観品質			硝子率(%)			空洞麦率(%)		
			本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
大麦	シュンライ	中旬播種	3.0	4.0	4.3	35.5	32.3	30.4	2.7	0.3	1.6
		下旬播種	3.0	3.0	3.9	41.7	47.0	38.3	1.0	0.3	1.7
	ミノリムギ	中旬播種	3.0	4.0	4.2	21.5	32.3	32.9	0.3	0.0	1.6
		下旬播種	3.0	3.0	4.3	19.0	49.7	30.6	3.3	0.0	1.8

注1) 平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値

2) 外観品質 1: 上の上, 2: 上の下, 3: 中の上, 4: 中の虫, 5: 中の下, 6: 下

3) 硝子率: 切断した断面を観察し、硝子状部分70%以上を硝子質粒, 30%以下を粉状質粒, 間を中間質粒として算出。

4) 空洞麦: 粒の中心部を横に切断し、肉眼により空洞が確認できた粒数の割合。

- ・小麦の外観品質は、概ね平年並みであった。タンパクは、「シラネコムギ」では平年よりやや高い傾向がみられ、前年より高かった。「夏黄金」は概ね平年並みであった。

【作況試験ほ 小麦品質調査(古川農業試験場)】

品種		区分	外観品質			粗タンパク質含有率(%)		
			本年	前年	平年	本年	前年	平年
小麦	シラネコムギ	中旬播種	4.0	3.0	3.0	12.1	10.8	10.8
		下旬播種	4.0	4.0	3.9	12.4	11.1	11.5
	夏黄金	中旬播種	4.0	4.0	4.4	13.2	12.9	12.8
		下旬播種	5.0	4.0	4.2	12.1	13.4	12.5

注1) 中旬播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値

2) 外観品質 1: 上の上, 2: 上の下, 3: 中の上, 4: 中の虫, 5: 中の下, 6: 下

5) 作付面積・収量・等級比率等

- ・作付面積(出荷契約時)は小麦が1,105haで概ね前年並み、大麦が1,307haで前年より100haほど少なかった。収量(検査数量/播種積)は、小麦が402kg/10a、大麦が306kg/10aで、前年より40～50kg程度低かった。
- ・小麦の1等比率は66.6%で、前年産の66.0%とほぼ同じだった。2等以下の格付け理由は、2等はすべて「形質」で格付けされ、それ以外の格付け理由は規格外となっている。昨年発生が多く確認された「赤かび粒」は、0.3%と昨年に比べ5.7ポイント下回っている。
- ・大麦の1等比率は5.0%で、前年産の7.5%より低かった。2等以下の格付け理由は、ほと

んどが「形質」であった。昨年発生が多く確認された「赤かび粒」による格付けはなかった（昨年 7.3%）。

麦種	品種名	作付面積 * 1 (ha)	検査数量 * 2 (t)	収量 * 3 (kg/10a)	等級数量 (t) * 2			等級比率 (%) * 2		
					1 等	2 等	規格外	1 等	2 等	規格外
小麦	あおばの恋	55	234	425	154	64	17	65.6	27.2	7.2
	銀河のちから	26	20	77	0	18	2	0.0	90.0	10.0
	シラネコムギ	299	996	333	529	320	147	53.1	32.1	14.8
	夏黄金	725	3,196	441	2,280	440	477	71.3	13.8	14.9
	小麦 計	1,105	4,446	402	2,963	841	643	66.6	18.9	14.5
大麦	シュンライ	415	1,250	301	45	965	241	3.6	77.2	19.2
	ミノリムギ	233	790	339	0	426	365	0.0	53.9	46.1
	ホホワイトファイバー	649	1,951	301	156	1,372	422	8.0	70.3	21.7
	その他 (ファイバーS)	10	4	40	0	4	0	0.0	100.0	0.0
	大麦 計	1,307	3,995	306	201	2,767	1,028	5.0	69.3	25.7

* 1 出荷契約時の播種面積

* 2 令和 8 年産麦の農産物検査結果より（令和 8 年 8 月末現在） 宮城県JA農産物検査協議会とりまとめ

* 3 検査数量/作付面積

2 東北地方の 1 か月予報【10月10日～11月9日までの天候見通し 気象庁HPより】

- ・東北太平洋側では天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込み。
- ・気温は、高い確率 70%，平年の確率 20%，低い確率 10%。
- ・降水量は、多い若しくは少ない確率 30%，平年並みの確率 40%。
- ・日照時間は、多い若しくは少ない確率 30%，平年並みの確率 40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)				
気温	東北地方	向こう 1 か月 10/10～11/09	10 20 70	
		1 週目 10/10～10/16	10 10 80	
		2 週目 10/17～10/23	10 20 70	
		3～4 週目 10/24～11/06	10 30 60	
降水量	東北地方	向こう 1 か月 10/10～11/09	30 40 30	
日照時間	東北地方	向こう 1 か月 10/10～11/09	30 40 30	
低い(少ない) 平年並 高い(多い)				

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3 令和 9 年産麦類の生産に向けて

(1) 適期播種

◆麦は冬に向けて生育する作物なので、生育量の確保が最も重要である（北ほど早い播種）。

- ・播種が遅れると分けつの発生が遅れ、根張りも悪く寒害にも弱くなる。
- ・生育の遅れは、遅発分けつの発生が多く、未熟粒や硬質粒が発生して品質が低下する。
- ・播種量は、大麦で 8～10kg/10a，小麦で 9～11kg/10a を基本とする。
- ・赤かび病等の防除のため種子更新，選種，種子消毒を確実に実施する。
- ・適正な播種深は，ドリル播きでは 3 cm 程度である。播種前に，播種機の深度調整等をしっかり行う。

- ◆小麦「あおばの恋」は早生品種で、シラネコムギ等比べて生育相が速いため、早播きすると凍霜害（幼穂の凍死）が発生する恐れがある。そのため、他の品種より 10 日程度遅くする。
また、あおばの恋の適正播種量は 6～9kg/10a とする。
- ・播種時期の目安は、下表を参照する。

地域区分	小麦 あおばの恋	大麦	シュンライ
			ミノリムギ
			ホワイトファイバー
		小麦	シラネコムギ
			夏黄金
北部平坦	10月15～30日	10月5～20日	
南部平坦	10月25日～11月10日	10月15～30日	
三陸沿岸	10月15～30日	10月5～20日	

（２）排水対策

- ◆本年は降雨が多く稲の収穫が遅れているため、稲わらの処理や排水対策も遅くなると思われる。
- ・稲の収穫後は、早めに明渠（30～40cm 深）を設置し、表面水の排除を促す。
- ・本暗渠に弾丸暗渠を組み合わせ、作土下の排水を促す。ただし、作土が十分に乾燥していないと、重機の作業に支障をきたす場合があるので、注意する。

（３）雑草防除

- ・播種後は、土壌処理剤を散布し、その後の雑草発生に応じて茎葉処理剤を使用する。
- ・近年、ネズミムギやカラスムギなど、通常の管理では防除が困難な雑草（難防除雑草）が増えている。これらには外来雑草が多く、種子が大きく寿命が長いものが多い。
- ・難防除雑草は、まず、ほ場に「侵入させない」こと、すでに侵入した場合は「広げない」ことに重点を置く。

- ◆ネズミムギが発生した場合の防除体系は、下図のとおりである。まず、麦の収穫後は耕起しないことが重要である。耕起すると、雑草の生息範囲が広がってしまうためである。秋までは耕起せずに放置しておき、播種前に「茎葉処理剤」で抑え、播種後はネズミムギに効果のある「土壌処理剤」を散布する。
- ・今作には間に合わないが、次作も同一ほ場で麦類を連作する場合は、考慮しておく。



図1 麦類連作におけるネズミムギの防除体系